

政策評価調書(26年度実績)

政策名	教育の再生、未来を拓く人づくりと青少年の健全育成	政策コード	Ⅲ-1	関係部局名	教育庁、企画振興部、福祉保健部、生活環境部、商工労働部、警察本部
-----	--------------------------	-------	-----	-------	----------------------------------

【Ⅰ. 政策の概要】

学校・家庭・地域の連携による知・徳・体の調和のとれた子どもの育成や、幼児教育・特別支援教育の充実、いじめ・不登校対策の強化、生涯を通じた学びを支える環境づくり、社会への適応が困難な青少年等に対するサポート体制の整備などを進める。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

	施策名	指標評価	総合評価
1	子どもの挑戦や自己実現を支える学校教育の推進	概ね達成	B
2	いじめ・不登校対策の強化	概ね達成	A
3	県民総ぐるみによる教育の推進	達成	A
4	地域に根ざした大学等高等教育の推進	達成	A
5	生涯学習社会の形成と社会教育の推進	達成	A
6	青少年の健全育成	概ね達成	B

【Ⅴ. 政策を取り巻く社会経済情勢・今後の動向】

グローバル化や少子高齢化など変化の激しい時代を生きる全ての子どもたちに、未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育を着実に推進していくことが重要である。全国学力調査で、本県の小学校は4科目全てで全国平均を上回り、全国順位は過去最高、九州トップレベルを達成した。一方、中学校の全国順位は足踏み状態で、より一層の学力向上への取組が必要である。

児童生徒の体力については着実に向上しており、全国体力調査において小学生は九州トップレベルとなった。中学生の体力も向上しているが、女子生徒に対する運動の実施頻度を高める取組などが必要である。

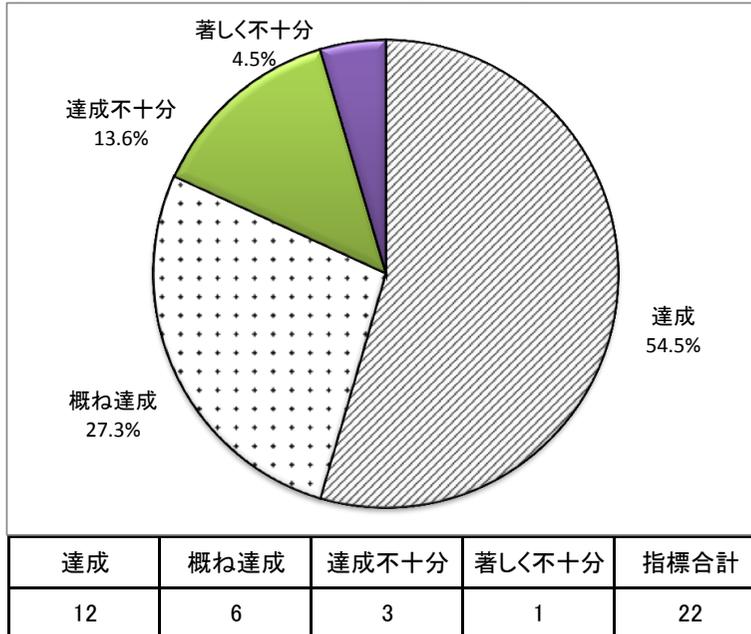
いじめの解消率は向上しつつあるが、引き続き、いじめの早期発見、早期対応のための組織的な取組の強化や警察等関係機関との連携を一層推進する必要がある。また、不登校の児童生徒の復帰率は全国平均を上回っているものの、出現率は高く、不登校の未然防止と重篤化の予防に向けた組織的な取組が必要である。

郷土への愛着や誇りを持つ心情が育まれていくよう、郷土の先人や芸術、歴史遺産について知る機会の充実などが求められている。

子どもたちの育成や学校を取り巻く諸課題を解決するため、学校・家庭・地域が連携した取組が求められている。大学等高等教育機関は「知(地)の拠点」として、学生の確保や生涯学習の提供、グローバル人材の育成、自治体や企業等との連携など地域への貢献が期待されている。

青少年のネット利用に絡む事件のほか、ネット上のいじめやネット依存による問題も指摘されており、家庭内でのインターネット利用のルールづくりの推進などネット対策の継続的強化が必要である。

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

指標名	達成率
読書活動を週1回以上実施している学校の割合	79.3%
<著しく不十分となった理由>	
<p>意図的・計画的な読書指導及び学校図書館を活用した授業改善等に努めたが、中学校では3年時に朝自習の時間をプリント学習に充てる学校が多いため、目標値に届かなかった。</p>	